

---

# 泣けないなら鳴かせてあげる

† 蓮音 †

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

泣けないなら鳴かせてあげる

### 【Nコード】

N2350W

### 【作者名】

十蓮音十

### 【あらすじ】

お前は一度泣いた方がいい。泣けないなら鳴かせてあげる。

「漣、今日暇？」

「あ？……ああ……」

俺がそう答えると「良かった」って目の前の奴は笑った。

「今日ね、本当は和哉と約束してたんだけど……」

コイツはそこで口ごもった。

その先は言われなくても分かる。

「……またか……」

こくりと頷いたコイツ……沙樹は俺の幼なじみで、”和哉”って男の恋人。

「……俺ん家来れば？」

「ありがと……」

俺に安心しきった沙樹は彼氏と何かある度に毎回俺の家に来る。少しくらい、警戒心を持ってほしい。いくら俺だって何するか分からないのに。

「……でね、和哉が…」

沙樹の口から出てくるのは、和哉、和哉、和哉。

あとは女の名前が数人。

沙樹の彼氏は浮気性でそれをやめる気も隠す気もないみたいだ。

「……泣けばいいのに」

少しは辛さも治まると思ってこの言葉を言うけど沙樹は首を横に振って、泣くことは一切なかった。

いつも通りにいくと、ここで沙樹が「ありがと、ばいばい」って言って帰るはず。

だけど、今日は違う。

俺はこのことをずっと気になってたから。

「何で」

「……え？」

「何で、泣かねえんだよ」

彼氏を好きだから別れない。

だから毎回、俺へ話しに来る。でも泣かない。

何でだよ。

沙樹。

お前は何がしたい？

じっと、美砂の言葉を待つ。

「……泣いてほしいの？」

「は…」

「でも泣かないよ。だって、あたしが泣いたら和哉に悪いし」

目を伏せた沙樹は、意味不明な言葉を続けた。

「和哉は悪くない」だの「浮気されるあたしが悪い」だの「もしかしたら、あたしが浮気相手なのかも」だの。

「それにね。和哉のことやっぱり好きだし…」

「この間はあたしの声が綺麗って言うてくれたの」と頬を赤らめる沙樹。

馬鹿じゃねえの。

ふざけんなよ。

だったら俺に話すなよ。

俺だって好きだったんだよ。

分かるか沙樹、俺の気持ちがある。なあ沙樹。

「沙樹」

「……なに？」

俺だってもう限界なんだよ。

「ナカせてやろうか」

「え……」

好きな奴の惚気なんて聞きたくない。

好きな奴の俺以外の男の悩みなんて聞きたくない。

「泣けねえんだろ？」

「泣けない、っていうか…。てか漣、どうしたの？」

困惑した表情で俺を見つめる沙樹。

「いーよ、もう何でも」

「え？」

「お前は、ナいとけ」

焦点の合わない目で沙樹を捕らえる。そのまま腕を掴み、ベッドへと倒した。

「ナけよ、ほら」

「な、に言ってるの…？」

お前は一度、泣いた方がいい。

きっと彼氏への涙が溜まり過ぎてる。

それでも、泣けないなら。

俺が鳴かせてやるから。

鳴いたらきつと、泣けるから。

俺は、首元に顔を埋めた。

「やっ、漣…やめて……」

行為は止まるどころか、エスカレートするだけ。

「や……やだ!! やめっ……や……いやあああああ!!……!!」

あいつが綺麗だと言った沙樹の声は悲鳴となって消え、沙樹の泣き声は、鳴き声となり、甘く、甘く、響いた。

「……鳴けたな、沙樹」

真っ赤に染まったシートの上。

横たわる沙樹の頬に光る涙を拭う。

虚ろな瞳を曇らせ、ひとり、そう呟いた。

泣けないなら鳴かせてあげる。

**(後書き)**

＋蓮音＋です。

今回は、少々卑猥な感じになってしまいました。

こういう話は初めて執筆したので……。

反省してます。

知識も何もないので……この作品はR18ではないはず……。

今後もしよろしくお願いします。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2350w/>

---

泣けないなら鳴かせてあげる

2011年10月9日14時56分発行